

海老名市の家計簿の特徴は？

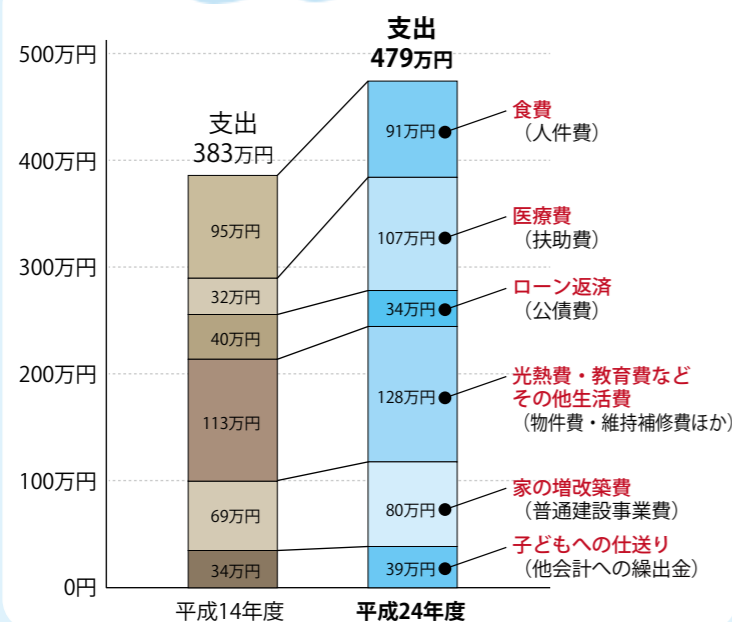
【収入】「親からの仕送り」と「生活資金のためのローン借入れ」が少ないことです。「給料」などほかの収入源でまかなえているため、「親からの仕送り」をあまり受けず、借金も少なくすんでいます。

【支出】「ローン返済」が少なく、「家の増改築費」が多いことです。市民一人あたりの借金残高が、県内（政令市を除く16市中）で一番少なく、また、積極的に道路の整備や公共施設の大規模改修などのまちづくりを推進しているためです。

支出

	(平成14年度)	(平成24年度)
食費 (人件費)	95万円	91万円
医療費 (扶助費)	32万円	107万円
ローン返済 (公債費)	40万円	34万円
光熱費・教育費など その他生活費 (物件費・維持補修費・積立金・補助費など)	113万円	128万円
家の増改築費 (普通建設事業費)	69万円	80万円
子どもへの仕送り (他会計への繰出金)	34万円	39万円
合計	383万円	479万円

※収入との差額は、次年度への繰り越しになります。



10年前とは、どう変わった？

食費とローン返済は減少していますが、医療費が大幅に増加しています。医療費の多くは制度として支出が義務づけられており、内容の見直しが柔軟にできる家の増改築費とは違い、節約が難しい経費です。

食費・医療費・ローン返済が増加すると、自由に使えるお金が減ってしまうため、今後も注視が必要です。

医療費(扶助費)が増えているのはなぜ？

医療費のうち、子どもに関するものは約4.5倍、障がい者と生活保護に関するものは約3倍増加しました。社会情勢の変化や国の社会保障制度の改定が要因と考えられます。

海老名市のお財布事情

市では毎年、財政状況を公表し、皆さんが納めた税金がどのように使われているのかお知らせしています。今回は、財政状況とその変化を身近に感じてもらうために、平成24年度と平成14年度の一般会計決算額を、年収500万円の家庭の家計簿に換算してみました(※)。

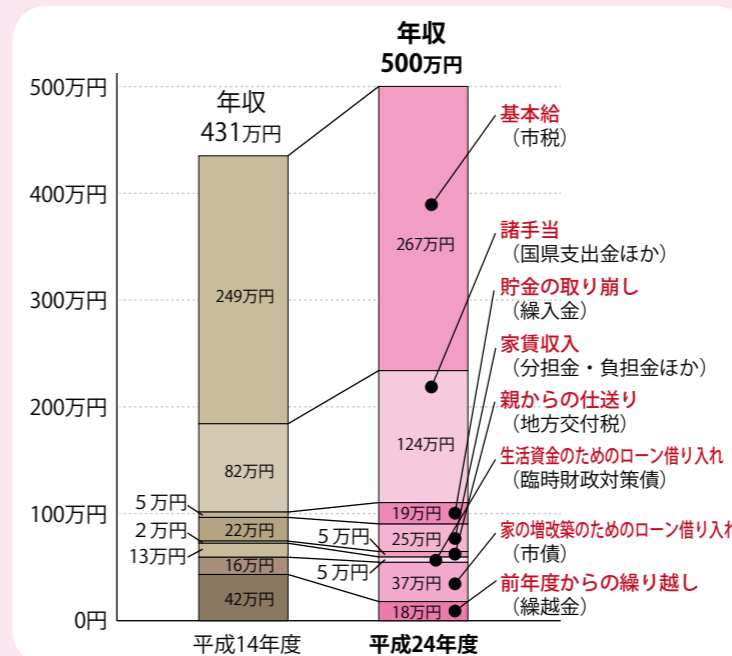
10年前のお財布とどう変わったのか、一緒に見てみましょう。

※一般的な家計簿の分類と市の予算の分類は、内容が完全に一致するものではありません。



収入

	(平成14年度)	(平成24年度)
給料	331万円	391万円
うち基本給 (市税)	249万円	267万円
うち諸手当 (国県支出金・地方譲与税・交付金)	82万円	124万円
貯金の取り崩し (繰入金)	5万円	19万円
家賃収入 (分担金・負担金・使用料・手数料・財産収入・寄附金・諸収入)	22万円	25万円
親からの仕送り (地方交付税)	2万円	5万円
生活資金のためのローン借入れ (臨時財政対策債)	13万円	5万円
家の増改築のためのローン借入れ (市債)	16万円	37万円
前年度からの繰り越し (繰越金)	42万円	18万円
合計	431万円	500万円



どうして収入が増えたの？

児童手当や生活保護費の支給など、国や県から諸手当をもらう事業が増えたことが、最も大きな要因です。

収入はこれからも増えていくの？

収入の大半を占める基本給(市税)は、10年前と比較すると増加していますが、過去最高であった平成19年度決算と比べると25万円減少しており、大幅な増加は見込めないことから、今後も厳しい状況が予想されます。